

- (2) 放流魚は全数標識を行った。大型種苗 4,879 尾のうち、アンカータグ (15mm) 装着魚 4,630 尾 左腹鰭抜去 249 尾であった。小型種苗 1,077 尾は右腹鰭抜去を実施した。
- (3) 放流直後の標識魚の行動は海面放流後一直線に海底に向かい、海底近くで群を作って放流地点 周辺を群泳していた。小型種苗がアカカマス、マダラエソ、アオヤガラに捕食されるのを観察し た。川平湾ではゴマフェダイによる捕食を観察した。
- (4) 川平湾での再捕尾数は 28 尾 (再捕率 1.2%) で、移動距離に 1.5 km 以内と小さかった。名蔵湾 での再捕尾数は 7 尾 (再捕率 0.2%) で少なく、移動距離は 2.5 km 以内で小さかった。再捕魚は アンカータグ標識魚であった。
- (5) 標識魚の成長は名蔵湾では順調であるが、川平湾では成長が明確でない。
- (6) 大型魚と小型魚を用いて標識飼育試験を実施した。15mm アンカータグはハマフェフキの標識と しては脱落が多く、生産率が低いなどの問題があった。腹鰭抜去は大型魚、小型魚とも再生率低 く、生残率が高いことから実用の可能性があった。

#### 4 漁業実態

- (1) 八重山地区では一本釣、刺網等でフェフキダイ類は漁獲されており、農林統計では“その他 のたい類”に含まれている。フェフキダイ類の占め割合は 15% である。
- (2) 八重山地区のフェフキダイ類魚獲量は 58 年に 112 トンであり、うちハマフェフキは 36 トンで 33 % を占めている。

### 残された課題

#### 1 種苗生産

- (1) 初期飼育の歩留り向上、(2) マガキ幼生の給餌方法の検討、(3) S 型ワムシの小型化培養 方法の検討。

#### 2 中間育成

- (1) 沖出し直後の大量減耗防止
- (2) 適正収容密度の把握
- (3) ハマフェフキに適した生簀網構造の検討

#### 3 放流と追跡調査

- (1) 追跡方法の検討
- (2) 移動・分散および成長の把握
- (3) 放流場所と方法の検討
- (4) 最適放流サイズの検討

#### 4 漁業実態

- (1) 標本船調査により，漁業実態査を行ない，漁場分布，漁具漁法，出漁日数等を明らかにする。
- (2) 魚市場調査を実施し，魚体測定による年令組成等を調査する必要がある。

### 文 献

- 北川衛，他（1983） マダイの腹鰭抜去による標識法について．栽培抜研，12（1），5－9.
- 沖縄県水産試験場（1975） 栽培漁業漁場資源生態調査報告書（昭和47～49年度総合版）  
ハマフエフキ
- 沖縄県水産試験場（1983） 昭和57年度栽培漁業技術開発事業報告書．
- 沖縄県水産試験場（1984） 昭和58年度栽培漁業技術開発事業報告書．
- 沖縄県水産試験場八重山支場（1975） 昭和49年度保護水面管理事業報告書．  
（1978） 昭和52年度名蔵湾保護水面調査報告．薬場  
（1981） 昭和55年度名蔵湾保護水面調査報告．薬場
- 海老沢明彦・嘉数清（1982）ハマフエフキ等珊瑚礁魚類標識放流実験調査「珊瑚礁海域漁場開発  
計画調査報告書」沖縄総合事務局農林水産部，1－23.
- 沖縄総合事務局農林水産部（1984） 第12次沖縄農林水産統計年報，171－255.